

初詣・櫻井神社

～鎮守の森と志摩の海～

今年最初の野外の自然観察会は、糸島半島の先端に鎮座する櫻井神社と櫻井大神宮への初詣です。

予報では、あいにくの雨予報でしたが、なんとか天気ももって、さほど寒くもなく、のんびりと初詣と散策を楽しむことができました。

今回は、悪天候や寒さが心配される中でしたが、受講者26名と講師・事務局担当者3名の総勢29名という大人数での開催となりました。

櫻井神社は、江戸時代の初め、黒田藩二代藩主の黒田忠之公により創建された神社で、当時創建された境内の3つの社殿（本殿、拝殿、楼門）が昨年（令和5年）、国の重要文化財に指定されました。

また、櫻井神社の南西側には、櫻井神社創建に先だって、伊勢神宮より分霊され、祀られている櫻井大神宮も隣接しています。

参道や境内では、ご神木の大楠や大杉をはじめ、サカキ、オガタマノキ、カクレミノ等たくさんのお木々が鎮守の森をつくっていますが、真冬のこの時季は4種類のツバキが華やかに咲き誇っています。

自生のヤブツバキはもちろん、シロヤブツバキと園芸種のワビスケ、また、下見の時は花がほとんどついてなかったタイワンツバキも白い可憐な花を咲かせていました。

すでに落ちている花を拾って、ツバキの花の構造、おしべの葯の有無など、それぞれの花の違いをしっかりと観察しました。



シロヤブツバキ



それから、植物だけでなく、神社の本殿の造りについての話にも、皆さん興味津々でした。

櫻井神社と大神宮を参拝したあとは、両宮の間から海まで伸びるお潮井の道を海岸まで散策します。

ハマビワやハマヒサカキ、トベラなど海岸性の樹木、その中にサネカズラの赤い実やキカラスウリの実を観察しながら、車のほとんど通らない道をわいわいと、

のんびり散策しました。

12時過ぎには、大口海岸に到着、いつになく大きな波が打ち寄せている向こうに二見ヶ浦の夫婦岩が見えます。

風の当たらない広場でお弁当を広げ昼食。

その後、車道を1kmほど歩き、「つまんでご卵」直売所で野菜やケーキ等買い物を楽しみながらバスを待って、解散となりました。



ワビスケの花

今回は、寒さも雨も免れて、散策コースも、ほとんどアップダウンがないので、ゆっくりと楽しむことができたかと思います。

もちろん、けがや病気もなく、皆さん元気にバスに乗り込んで、帰路につきました。

2024年1月19日

スタッフ：田川、千田（作成）